

## 暴力表現における là の用法

楊 鶴

## 1. はじめに

フランス語の là は話し言葉に多く見られ、主に文末に出現する。Là には指示機能があり、場所指示用法、時間指示用法、または文脈指示用法が広く認知されている。また、là は間投詞として使われ、alors, ben, bon, quoi, mais, enfin などの語彙と同じく頻用され、同意、疑問、躊躇、反発といったモダリティーを持ち、発話にさまざまなニュアンスを与える<sup>1</sup>。

Là の場所指示用法を以下に示す。

(1) 待ち合わせの相手をようやく見つけて、相手に向って

- Ah, vous êtes là !!

(筆者作例)

(1) では、là は必要不可欠である。Là が欠けてしまうと非文となってしまう、文としては成立しない。

(2) Fiona : Arrête de crier sur moi là !!

(Pascal, le grand frère – Fiona)

(2) において、là が欠けていても文に意味的变化はなく、聞き手に伝える情報量も変わらない。文末に Là を伴うことで、文に話し手の気持ちや意志が表れ、発話全体になんらかのニュアンスを与えていると思われる。

## 2. 暴力表現における là

Là はさまざまな種類の談話に出現する。正式な談話や初対面の人に対して用いることは難しく、日常会話に見られる雑談や友達同士、家族間の会話に現れることが多い。そこで、いくつかの場面（雑談、依頼など）で検証したところ、「けんか」の場面に là が多く出現することが観察された<sup>2</sup>。その理由として、まず読物や小説には là があまり見られないと考えられる。次に、映画やドラマのセリフにおいて、暴力表現が表記されているとしても、自然に発話される間投詞のような語彙は、文面的には現れないと思われる。

<sup>1</sup> 前島（1997）

<sup>2</sup> Là の談話別出現頻度に関する研究結果はなく、現時点では là が暴力表現に頻繁に用いられると推測する。

一般的な日常会話よりも、暴力表現に là がより多く現れるのならば、là には何らかの役割があり、話し手の談話ストラテジーの構築の手助けをしているに違いない。また、聞き手に与える発話の印象も変わることもあると考えることができる。

暴力表現は日常会話に比べ、特殊な言語構造となっている。その特徴として、1) 感嘆。発話の抑揚、声の強弱。2) 非文法であることが多い。3) 特別な語彙を持つ (Gros mots や定型表現) が挙げられる。さらにもう一つ重要な特徴としては、mots grammaticaux や connecteur が見られることである。間投詞にあたるこれらの語彙は、状況によってさまざまな意味合いを持ち、その機能を分析をする必要があると思われる。本稿は、間投詞の中でも là に注目し、暴力表現においてどのような役割を果たしているのかを明らかにする。

### 3. 辞書表記

LÀ [la] adv. et interjection

I Adv. Désignant de lieu et plus rarement le moment.

- A. (employé seul) 1. Dans tel lieu (autre que celui où l'on est), opposé à ici. Ex : Ne reste pas ici, allez là.
- 2. À ce moment.
- 3. Dans cela en cela.
- B. (suivi d'une relative) c'est là que ...(lieu)
- C. (Accompagnant un pron. Ou un adj) c'est là. Ce sont là vos parents ?
- D. 1. (Précédé d'une prép.) De là : en partant de cet endroit.
- 2. Là-bas. Au-dessous / Désignait l'enfer.

II Interjection

- 1. LÀ ! (parfois la ! là !) : s'emploie dans les dialogues pour exhorter, apaiser, rassurer.  
Ex : Hé là ! Doucement ! Là, calme-toi !
- 2. Pour reprendre un terme que l'on vient d'exprimer.  
Ex : « avez-vous de l'amour pour elle, là, ce que l'on appelle de l'amour ? » (Marivaux)

*LE NOUVEAU PETIT ROBERT* (1993) を参照すると、là は大きく二つの用法に分けられている。I は「副詞の là」である。広く認知されている場所指示用法、時間指示用法の là の他に、関係代名詞や形容詞と一緒に使うことができる。II では、là を間投詞として捉えている。このような là には発話を和らげたり、聞き手を安心させたりする機能があるとしている。本稿は、この二つの用法を基準に、là の用法を考察する。

#### 4. 先行研究

Forget (1989) は、là には「直示的機能」と「談話的機能」があると述べた。

(3) Mets ça là, sur la table.

(Forget 1989 p.58)

(4) - Quand est-ce qu'on y va ?

- On y va là, tout de suite. Prépare-toi.

(Forget 1989 p.58)

Là は、(3)では、「机の上」という場所を示し、(4)では時間、つまり発話時点「今 (maintenant)」を示している。Forget (1989) によれば、この場合の là は場所や時間を指し示す「直示的用法」« fonctionnement déictique » を持つ。

(5) Louise là, ma voisine là, elle s'est fait creuser une piscine.

(Forget 1989 p. 59)

(5) では、là は単独で使われ、ici や avant / après と置き換えができないため、場所や時間を指し示す機能はなく、口語に現れる談話マーカーとして捉える事ができる。Forget (1989) は、このような用法を「談話的用法」« fonctionnement discursif » としている。

最初に文末の là の研究したのは Barbéris (1992) と思われる。Barbéris は文末に現れる là 「終結の là (là de clôture<sup>3</sup>) 」と名づけ、発話者の会話の方向づけに関与しているとした<sup>4</sup>。また、リズムやポーズも発話を構築する上で大事な要素となり、考慮しなければならないと述べた。さらに、là を文末に用いて、強く発話することによって相手の注意を引くと同時に、発話をよりよく理解させるための時間を相手に与えている<sup>5</sup>。

---

<sup>3</sup> J'ai proposé de dénommer ce type d'emploi « là de clôture », en raison de la position qu'occupe le déictique dans la chaîne parlée, à la fin d'un groupe syntaxique.

<sup>4</sup> La coopération active des interactants se lit dans la régie de la conversation, assurée par les ponctuations métadiscursives : celles de locuteur sont destinées à demander sans cesse l'approbation de l'interlocuteur, les commentaires en arrière-plan de celui-ci orientent celui qui a la parole, soit vers une poursuite de l'explication, soit vers une reprise plus claire de l'explication. Le « là » participe de cette orientation du destinataire vers le destinataire...« là » oblige l'interlocuteur à opérer un rattrapage de cohérence, et à jouer un rôle actif dans la construction de la référence.

<sup>5</sup> A la réception, les « là » opèrent une focalisation de l'attention, mais aussi laissent un temps plus long pour l'enregistrement des informations emphatisées.

Judge & Healey (1983) によれば、ici を用いた方が、là に比べて緊急事態や切迫した状況を表すことができる。以下の例において、viens ici の方がいらだちを強く見せることができるとしている。

(6) **Viens ici** que je te donne une paire de claques !

**Viens là** que je te donne une paire de claques !

(Judge & Healey 1983 p.81)

(6)では、viens ici を使うことで相手によりいらだちを伝えることができ、相手への攻撃を強めていると考えるところができる。しかし、以下の例において、viens ici と viens là にそれほど差はないとも指摘している。

(7) **Viens ici** que je te donne un bonbon.

**Viens là** que je te donne un bonbon.

(Judge & Healey 1983 p.81)

Smith (1995) もまた、ici と là の「いらだち」の程度について分析を行った。Smith (1995) によれば、viens ici はカーブ型のイントネーションを伴い、話し手の「いらだち」や「焦り」が表れる。また、話し手の「いらだち」が徐々に強くなっていく状況において、「viens là, viens là ... mais viens ici !」のように「là」から「ici」に変わる言い方は容認できるが、「viens ici, viens ici ... mais viens là !」のように「ici」から「là」に変化していく表現は容認できないとしている。しかし、Smith (1995) ではこれに対しての具体例を提示していなく、「ici」から「là」に変化していく表現がどのように容認できないは述べられていない。

前島 (1997) は、会話に見られる là を「対話調整辞<sup>6</sup>」と捉え、対話の継続を確保する機能があるとした。Là が会話に多く見られるのは「話主が自分の言わんとすることを修正・確認しつつ発話を漸層的に構築していく過程を逐一記さないのがまさに書き言葉の特質だから」と述べている。また、là が見られる例に共通しているのは、「話主・対話主がすでに成立している場面（つまり対話）において、話主が P という情報を対話主に十全に伝達できるかどうか {...} が、対話の流れや状況の展開を、話主にとって好ましい方向に進める上で重要なポイントであるとみなしている点」であると述べた。前島にとって、là には嫌な話題の打ち切り、別の話題への移行、対話自体の中止、または、話し手にとって迷惑な状況の展開をストップさせるという機能が含まれている。さらに、là は相手への非難を表すことができるとしている。

---

<sup>6</sup>「対話調整辞」とは、alors, bon, ben, hein, quoi, enfin などの語彙であり、会話において同意、疑い、躊躇、反発などといったモダリティーを持つ。(前島 1997)

(8) - Comment tu peux comparer, maman ! Moi, j'essayais d'enseigner l'anglais à une bonne quarantaine de voyous analphabètes dans une banlieue pourrie. Au risque de ma vie.

- Tu exagères, là, Jacquotte !

- A peine. Jamais j'allais aux toilettes sans ma bombe lacrymo.

(Sarraute, 12 - 前島 1997 p.36 より)

前島によれば、(8) は「対話主の発話に対する非難である。非難の意義は対話主に非を悟らせ別の言動に向かわせる、あるいは話主にとって不快な話題や状況を終了させることにあ

る」と記述している。

これらの先行研究を踏まえ、暴力表現の現れる là の機能を考察する。

## 5. コーパス

本稿では二つのコーパスを使用した。

コーパス 1 : « Mon père est femme de ménage », « LOL », « Intouchables », « Bienvenue chez les ch'tis », « Paris, je t'aime » の 5 つの映画から口論のシーンを抜き出し、暴力表現をコーパスに記述した。主に、家族、友達、人間関係がテーマとなっている映画を選択した。

コーパス 2 : « Pascal, le grand frère<sup>7</sup> » というテレビ番組を使用する。「Pascal, le grand frère」というテレビ番組を使用する。この番組では、反抗期や不登校、なんらかの問題を抱えている子供（中学生、高校生）を持つ親が、Pascal という教育者（éducateur）を家に呼び、子供を学校に復帰させたり、仕事探しを手伝ったりするものである。番組の冒頭 15 分に見られる親と子供の口論を抜き出しコーパスに記述した。

映画コーパスでは 20 例、番組コーパスでは 198 例、計 218 例の là を記述することができた。番組コーパスでは、11 エピソードを観察したところ、すべてのエピソードのけんか場面に là の使用が見られた。この現象からも、là は暴力表現において頻繁に出現し、その機能を明らかにする必要があると考えられる。

## 6. là の場所指示用法

この章では、là の場所指示用法について考察する。まず、「viens là」を取り上げる。次に、「viens là」と「viens ici」を比較し、場所指示の拡張用法について考察する。

### 6. 1. « Viens là »

---

<sup>7</sup> この番組は、2016 年 11 月時点では、フランスの TF1 にて放送中である。

Là は直訳すると「そこ」だが、**viens là** の場合は「ここに来て」と訳す方が自然的である。このような人を呼び止める言い方は、**viens** にアクセントが置かれ、là に向って下降イントネーションを伴い発話される。

(9) 母親の話を無視し、去っていく娘に向って

Mère : mais **viens là** on est en train de discuter

Fiona : tu me soules

Mère : comment ça je te soule

(Pascal le grand frère – Fiona)

(9) では、母親と娘が口論となった。その場を立ち去った娘を母親は **viens là** を使って呼び戻そうとしている。Là は母親と Fiona が先程まで話をしていた場所を指し、その場から離れてしまった聞き手を自分の所に呼び戻そうとする働きがある。このことから、**viens là** は相手呼び止める働きがあり、「掛け声」の一種であると捉える事ができる。また、両者の距離感から言えば、母親は自分の場所から離れずに相手の移動を求めている。

次の例では、両者が移動して、ある場所に移動をしている。

(10) 違法駐車をしている運転手を車から引きずり出し、駐車禁止の標識を読ませる

Driss : bonjour ça va?

Voisin : quoi

Driss : je te dérange pas ? Tu veux un café ? Tiens fais voir ça.

Voisin : quoi

Driss : **viens là, viens là, viens là**, vas y lis lis lis... lis...

Voisin : prière de ne pas stationner...

Driss : plus fort j'entends pas

Voisin : prière de ne pas stationner...

(Intouchables)

(10) では、話し手は聞き手である運転手を車から引きずり出しながら、駐車禁止の標識の前に連れて行く場面である。ここでは、là は発話者がいる場所ではなく、「標識の前」を指していると思われる。つまり、là はこれから両者が共有しようとしている場所を指すことができ、対話者との共有の場を作り出すことができる。

さらに、**viens là** を3回繰り返して発話している。ことでさらに、繰り返すことで発話を強調し、相手にプレッシャーをかけ攻撃しようとしていると思われる。普段の日常会話であれば、**viens là** を一回発話するだけで、相手は来てくれると考えるため、声をあげて言うことも

ないが、暴力表現の場合は、拒否する相手を無理やり来させようとしているため、発話の繰り返しが見られる。同じ表現を何回も繰り返すことができるところが暴力表現の特徴とも言える。

## 6. 2. « Viens là » と « Viens ici »

Viens là の働きを更に詳しく分析するため、viens ici の用法も同時に考察する必要がある。両者の相違点に述べた論文がある。以下に引用する。

Wartburg & Zumthor (1973 p.730)

*« Je suis ici signifie " je suis dans ce lieu précis déterminé" ; je suis là désigne une simple présence sans que l'idée de localisation soit soulignée. »*

Smith (1995 p.46)

*« Je suis ici est presque une tautologie qui signifie "je suis à l'endroit où je suis. »*

以上から ici は特定の場所、または話し手のいる場所を指し、là はそれ以外の場所を指していると考えられる。言い換えれば、ici が示す場所は範囲が狭く、là はより広い範囲の場所を指すことができる。これを踏まえて以下の例を観察する。

日野 (2007) によれば、「là は話者から離れた場所にある対象を示すだけでなく、近い場所、つまり ici を指すことができる。Là は遠近を無くす事ができる」と述べている。その根拠として、*Vous comptez rester là encore longtemps, monsieur Gastella ?* (GA, p.53 日野 2007 p.118 より) のような発話では、là と ici の置き換えが可能であり、かつ話し手と聞き手に距離はないからとしている。

次の例では、「viens là」と「viens ici」が一連の会話の中で共存し、使い分けられている。

(11) 父親の問い詰めにうんざりし、家を出て行く娘に向って

01 Père : assie-toi là deux minutes

02 Tatiana : y'a pas de Tatiana

03 Père : ta **viens là** ← Tatiana はまだ家の中にいる、父親と同じ空間を共有

04 Tatiana : non y'a pas de Tati je t'ai dit

05 Père : viens Tatiana **viens ici** Tatiana **viens ici** ← Tatiana は家を飛び出し、場は非共有

06 Tatiana : laisse moi tranquille

(Pascal le grand frère – Tatiana)

(11) において、**viens là** を発話した時点では、**Tatiana** はまだ家において、父親は同じ部屋にいた。**Là** が広い範囲を示すのであれば、両者が共有する部屋を指していると思われる。その後、家を出て行った **Tatiana** に対して父親は後を追いかけて、**viens ici** と発話している。この **ici** は父親がいる場所を指していると考えることができる。つまり、両者が同じ空間にいる時は **là** を使い、場を共有している。それに対して **ici** は、共有の場から外れてしまった対話者に対して、自分の所に戻るよう要求する時に使われると思われる。**Là** は会話の場を示しているが、同時に話者の「相手との場を共有したい」という思考が表れている。次の例でも同じようなことが言える。

(12) 家を飛び出した娘を追いかけて

01 Mère : t'as le linge à faire Corine

02 Corine : (hé Stop stop)

03 Mère : non tu **viens ici** ! dépêche-toi hé (putain) **viens ici** ! ← Corine 家を飛び出す (非共有)  
allez montes ! dépêche-toi !

04 Corine : non mais me suis pas me suis pas

05 Mère : mais tu **viens là** ← マンションの下の広場 (場を共有)

06 Corine : non sort dégage

07 Mère : non **viens** ! **viens** ! oh tu (rentres) pas là, y'a ta soeur là, je laisse ta soeur tran- toute seule là. **viens** !

08 Corine : attend

09 Mère : dépêche toi, **viens ici** ! ← マンションの下にいるが、母は立ち止まる (共有)

10 Corine : ...

11 Mère : Corine ! Coco ! Elle est partie. {court} Corine !!

12 Corine : c'est bon me suis pas là

13 Mère : tu **viens là** ! ← さらに場の共有を求める

14 Corine : non sort

15 Mère : **viens** !

(Pascal le grand frère – Corine)

(12) も場を共有するという考え方で説明ができる。母親を振り切り、家を飛び出した **Corine** に対して、03 行目で母親が **viens ici** と発話し、呼び戻そうとしている。この時点では、母親は部屋の中において、娘は外に飛び出している。両者は同じ空間にいないと考えることができ、母親は **viens ici** を使って **Corine** を自分のいる場所に呼び戻そうとしている。そして、立ち止まらない娘のあとを追ってマンションの外に出た母親は、05 行目で **viens là** と叫んでさらに呼び止めようとしている。ここで **là** が使えたのは両者がマンションの下にいる、その場を共



有しているからだと考えられる。また、09 行目では、両者ともマンションの下にいるが、母親は立ち止まりもう一度呼び戻そうとするが、Corine が拒否したため、後を追いかけて 13 行目で、là を使ってさらに場の共有を図ろうとしている。

Viens ici は、対話者との場を共有していない場合に使われることは次の例でも説明ができる。

(13) 電話で娘を家に呼び戻す

Mère : hé t'es où là **viens ici** dépêche toi

Corine : non je rentre pas oh t'es qui

Mère : je suis ta mère je te signale

(Pascal le grand frère – Corine)

(13) は電話の発話である。明らかに違う場所にいる娘に対して、自分の場所へと呼び戻そうとしているため ici が使われたことがわかる。しかし、電話のような非対面会話の場合は、もっと考察が必要である。

### 6.3. 話し手の視点移動

前節では、話し手と聞き手が移動しながら口論を展開させていた。そのため、会話の場が変化したり、話し手と聞き手の距離が変化したりすることで、「viens là」と「viens ici」を使い分けている。同じ空間に存在し、là と ici の使い分けは、発話者の視点でも解釈することができる。次の例は、同じ空間にいる母親と娘の口論シーンである。

(14) 2 階の窓から身を乗り出し、窓枠に座っている娘に向って

01 Mère : non non non non non

02 Morgane : lâche-moi, c'est bon

03 Mère : tu viens **ici**, tu fermes, tu fermes ta fenêtre ← 母親から見た「ここ」

04 Morgane : non !

05 Mère : Morgane, allez viens **là** là

↑ Morgane の視点に立って見た、母親にとっての「ここ」

06 tu me fais quoi là, allez viens **là**

↑ Morgane の視点に立って見た、母親にとっての「ここ」

07 Morgane : lâche moi je me je reste là, je bouge pas là, lâche moi

08 Mère : Viens là et arrête

09 Morgan : lâche moi

10 Mère : et arrête de gueuler stp Morgane

- 11 Morgane : je peux pas prendre l'air en fait, lâche moi, je prends l'air, je me mets là c'est bon,  
12                    je vais pas me barrer  
13 Mère : bha non mais tu peux ...

(Pascal le grand frère – Morgane)

(14) では、窓枠に座っている娘を心配し、窓から降りるように促している。最初の *viens ici* は、母親がいる場所を指している。母としての立場で Morgane に向って発話していると思われる。母親の要求を拒否した娘をどうにか説得しようと、次の発話で *viens là* と表現を変えている。これは、母親が視点移動をして、娘の立場に立って発話しているからだと思われる。このように考えると、発話者と対話者が同じ空間を共有しての場合、*là* と *ici* は同じ場所を指すことができる。話者は視点を移動されることで、対話者に異なる印象を与え、説得しようとしている。つまり、前島（1997）が言うように、*là* を使って対話調整をしていると考えることができる。

発話者は対話者との場を作りながら、ストラテジーが見られる。場所を表す *là* は、構造が複雑で対話を調整する場合もある。

(11)、(12)、(14) では、一連の発話の中で « *viens là* » と « *viens ici* » が交互に使い分けられている。いずれも怒りを伴った発話である。Smith (1995) が提示している、話し手の「いらだち」が徐々に強くなっていく状況において、« *viens là, viens là ... mais viens ici !* » のように « *là* » から « *ici* » に変わる言い方は容認できるが、« *viens ici, viens ici ... mais viens là !* » のように « *ici* » から « *là* » に変化していく表現は容認できないという主張において、いらだちの度合は、必ずしも « *viens là* » と « *viens là* » の順番によって決まるとは限らない。

## 7. 対話調整辞用法

この章では、*là* を間投詞として考える。間投詞としての *là* には、場所指示用法が見られなく、*là* が欠けていても対話者が受け取る情報量は変わらない。

### 7.1. 強意の *là*

*Là* は、暴力表現の文末に現れ、強いイントネーションとともに発話される。

- (15) 聞き手に向って「10 ユーロを要求する」

Pascal : donne-moi 10 euros

Steven : ouais bha

Pascal : non non non non donne moi 10 euros, hé écoute moi bien, tu me donne pas 10 euros  
écoute moi ce que je t'ai dis, tu me donne pas 10 euros je te casse ton ordinateur t'as

compris ce que je te dis, hé je suis ici, t'as compris ce que je te dis, vas y donne-moi  
10 euros je casse ta chaise là, héé, 10 euros là, tout de suite dépêche toi

(Pascal le grand frère – Steven)

(15) では、「10 ユーロ」をめぐり争っている。Là は直前の je te casse la chaise という行為や 10 euros に対して作用している。Là を強く発話することで、直前の発話が強調され、発話者は自分の要求を強めることができる。つまり、là を使って聞き手に向って、自分の言いたいことに対して、何度も念を押し強引に相手の同意を求めている。また、ここでは対話者の意志や考えを無視し、無理やり自分に従わせようとする動きから、là は自分の話題に相手（相手にとって都合のよくない状況である）を巻き込もうとする働きがあると思われる。

## 7.2. 非難的用法

人に対して非難を言う場合は、話し手と聞き手の意見が一致しなかったことが一番の理由だと思われる。

(16) 不機嫌な息子に対して

Père : qu'est-ce qu'il t'arrive

Polo : rien

Père : c'est quoi ton problème

Polo : ...

Père : c'est quoi ton problème

Polo : c'est toi mon problème

Père : ...

Polo : oui c'est toi mon problème, tout le temps tu me fous la honte, là on part jamais en vacances, on se fait chier, on pourrit ici, c'est pas ce qu'ils font les vrais pères, mais t'es pas un vrai père c'est une femme de ménage, voilà, t'es une femme de ménage, toujours à laver là par terre la merde des gens, toujours à 4 pattes, là toujours

(mon père est femme de ménage)

(16) は、息子が父親に対して不満をぶつけ、非難しているシーンである。息子の一連の発話から、三つの là が観察された。最初の là は、時間指示用法が強く出ていると思われる。「On part jamais en vacances」だけでも十分情報を伝えることができるが、là をつけることで、まさに「今」、発話時の今を表している。今がどんな時かは、文脈やコーパスの前後関係から知ることができる。(16) では、「今」は「夏休み」を指し、夏休みはいつも旅行に出かけないと父親を非難している。この非難が成立するには、「夏休みは旅行に出るのは当たり前」

という前提が必要となる。話し手は、自身が持っている前提を覆されてしまったため、非難が起きた。最初の là は、時間指示用法を持ちつつ、非難の意味も含まれている。

二番目の là は、文中に出現し、照応的用法を持つ。ここでは「父親の仕事が掃除の仕事」をしている前提が必要であり、話し手と聞き手がこの情報を共有している必要がある。Là は parlerre 「床」を指し示し、父親が掃除している床、つまり父親の仕事場を指し示している。そのため、この là は現場指示用法としても捉える事ができる。息子は、父親の仕事をあまりよく思っていないく、非難している。

最後の là toujours は、少し前に出てきた toujours à laver là の繰り返しである。

### 7.3. 反復とリズム

間投詞 (interjection) とは、「(文や語彙の) 間に投げる語彙」と解釈することができる。つまり、là というマーカーを文や語彙、音声の塊の間に挿入するということである。その場所はどこでもよいというわけではなくて、文頭、文末、語と語の間である。

(17) スーパーでつまみ食いをしている娘に対して

Mère : arrête t'es pas à la cantine là hein c'est c'est pas self-service là on se sert pas comme ça là

Ludivine : (mange)

Mère : ohh non mais là tapuse là je t'ai dit d'arrêter

(Pascal le grand frère – Ludivine)

(17) では、là はいずれも、文末、名詞句の後のような、区切れがよいところに挿入されている。Là を用いて文末を強調し、繰り返し使用することで発話にリズム感を持たせている。また、何度も繰り返すことで、相手いらだたせ攻撃していると思われる。

「～là ～là」というパターンは、何度も繰り返し発話の「間」に挿入できることが特徴、暴力表現における là の特徴だといえる。

## 8. 結論

暴力表現における là の用法を、場所指示用法と対話調整辞用法に分けて観察してきた。場所指示用法では、下降イントネーションを伴い発話された « viens là » を呼び掛けの一種捉える事ができる。立ち去っていく聞き手を自分の所に呼び戻そうとする働きがあり、一連の発話の中で何度も繰り返し使えるのが特徴的である。また、距離感を中心に考えれば、« viens ici » は対話者との共有の場を失った時、自分の場所に呼び戻す時に使用される。« viens là » は相手と同じ空間の中で、聞き手との場の共有を求める働きがある。さらに、話し手と聞き

手が同じ空間に存在する時、話し手の視点移動によって « viens ici », « viens là » が使い分けられている。

対話調整辞用法では、là 強く発話することで、直前の文や名詞句が強調され、聞き手に注意を促すことができる。嫌がる聞き手を無理やり自分の聞き手にするという役割がある。次に、非難的用法では、話し手と聞き手の意見不一致が問題となったり、話し手にとっての常識を覆された時、非難的用法となる。また、là は区切れがよいところに挿入されていて、会話にリズム感を持たせている。「～là ～là」というパターンに対して対話者はいらつき、口論となる。また、là は何度も繰り返し発話の「間」に挿入できることが特徴、暴力表現においての là の特徴だといえる。

## 参考文献

- 前島和也 (1997) 「口語における文末の là」 『フランス語学研究』 31, p.34-39.
- 前島和也、前島アンヌ＝マリー (1997) 「là の用法をめぐって」 『慶応義塾大学日吉紀要 フランス語フランス文学』 24, p.73-110.
- 日野真樹子 (2010) 「フランス語口語に見られる là の用法について」 『西南大学大学院文学研究論集』 29, p.115-136.
- AUCLIN, A. (1981a). Mais hein, pis bon, ben alors, voilà, quoi! Marqueurs de structuration et complétude. *Cahiers de Linguistique Française* 2, p.141-159.
- BARBERIS, J.-M. (1987) Deixis spatiale et interaction verbale : un emploi de "là", *Cahiers de praxématique*, 9, p. 23-48.
- BARBERIS, J.-M. (1992) Un emploi déictique propre à l'oral : le " là " de clôture, *la deixis*, Paris, PUF, p. 567-578.
- DUCROT, O. et al. (1980) *Les mots du discours*, Paris, Seuil
- FORGET, D. (1989). Là. Un marqueur de pertinence discursive. *Revue Québécoise de Linguistique*, Vol.18-1, p.57-83.
- JUDGE, A. & HEALEY, F. G (1983) *A Reference Grammar of Modern French*, Londres, Edward Arnold.
- PIERRE, V. JOSETTE, R-D. ALAIN, R (1993) *LE NOUVEAU PETIT ROBERT*, Dictionnaires Le Robert, Paris.
- SMITH, J. C. (1995) « L'évolution sémantique et pragmatique des adverbes déictiques ici, là et là-bas », in *Langue française* 107, p. 43-57.
- WARTBURG, W.-V & ZUMTHOR, P. (1973) *Précis de syntaxe du français contemporain (troisième édition)*, Berne, Francke.

## 参考資料

## 映画リスト

1. « Paris, je t'aime » (2006) réalisé par Olivier Assayas et Frédéric Auburtin
2. « Bienvenue chez les ch'tis » (2008) réalisé par Dany Boon
3. « LOL » (2009) réalisé par Lisa Azuelos
4. « Mon père est femme de ménage » (2011) réalisé par Saphia Azzeddine
5. « Intouchables » (2011) réalisé par Eric Toledano et Olivier Nakache
6. « La famille béliet » (2014) réalisé par Eric Lartigau

## « Pascal, le grand frère »

1. Adolescent : Fiona 18ans (Date de l'émission, 4 Juin 2014)
2. Adolescent : Steven 18ans (Date de l'émission, 18 Juin 2014)
3. Adolescent : Bixenta 17ans (Date de l'émission, 25 Juin 2014)
4. Adolescent : Ludivine 19ans (Date de l'émission, 02 Juillet 2014)
5. Adolescent : Tatiana 18ans (Date de l'émission, 14 Novembre 2014)
6. Adolescent : Sarah 15ans (Date de l'émission, 17 Avril 2015)
7. Adolescent : Corine 15ans (Date de l'émission, 11 septembre 2015)
8. Adolescent : Morgane 16ans (Date de l'émission, 22 Janvier 2016)
9. Adolescent : Pierrick 16ans (Date de l'émission, 22 Juin 2016)
10. Adolescent : Océane 15ans (Date de l'émission, 21 Juillet 2016)
11. Adolescent : Manon 16ans (Date de l'émission, 11 août 2016)

(よう つる / 文芸・言語専攻)